

<様式 2: 一般演題>

在宅血液透析普及に向けての取り組み

○野中 雄(のなか ゆう)¹⁾、荒木 真理¹⁾、前田 篤宏¹⁾、前田 麻木¹⁾、林 和歌¹⁾、伊達 沙織¹⁾、中島 明希¹⁾、中島 唯²⁾、河端 俊英¹⁾、前田 利朗²⁾

1) 幸善会前田病院腎センター、2) 幸善会天神オーバーナイト&内科

【目的】

現在当院の在宅血液透析(以下 HHD)患者数は3名である。これまでHHD導入にむけてアンケート調査やポスター掲示などを行ったが、2018年以降は増加に至らなかった。今回HHDが普及しない要因をアンケート調査したので報告する。

【対象】

70歳以下の外来維持透析患者105名(男性80名 女性25名)平均年齢61.9±7.9歳、透析歴の中央値5.5年、糖尿病性腎症は対象の50名であった。

【方法】

HHDの動画を作成し、視聴後にアンケートを実施した。

【結果】

動画を視聴した患者が84名、拒否した患者が21名であった。アンケートに答えた84名のうちHHDに興味がある患者が5名、どちらとも言えない患者が32名、興味がない患者が47名であった。

どちらとも言えない・興味がないを選んだ理由として多かったのは「針刺しが怖い」17.3%、「介助者の理解が得られない」16.7%であった。

【考察】

今回の調査でHHDの導入を妨げる要因として、自己穿刺に対する不安感と介助者の問題が挙げられた。自己穿刺については、トレーニング期間の十分な確保やバスキュラーアクセスの変更等の方法がある事を伝えていく必要性が考えられた。また、介助者の問題については、理解が得られない現状があり、今後は患者だけでなく介助者に向けたHHDの紹介も進めていく必要があると考えられた。